



## 特定荷主

エネルギー原単位は、2006年度比11%増加しました

荒川化学は、「省エネ法」で規定する特定荷主に該当しており、輸送によって使用するエネルギーの低減に努め、実績を定期報告書で報告するよう定められています。

エネルギー原単位(原単位:単位輸送量当たりのエネルギー消費量)について、2006年度比3%以上改善することを目標に、輸送の効率化、エコドライブやモーダルシフトの推進など対策に取り組みました。しかし、不況による輸送量の伸び悩みや、運送会社(路線便)の積載率が約15%悪化するなどにより、原単位は11%増加しました。

計画していた大阪工場の立体倉庫は順調に建設が進み、2010年2月に竣工しました。この倉庫の完成によって大阪市内に点在していた外部倉庫が集約されたため、倉庫間の運送が減少し、省エネ、温暖化ガス削減に役立ちます。年間削減量は、エネルギーは原油換算で5.1kL、CO<sub>2</sub>は13.5tになる見込みです。

この立体倉庫建設は、地球温暖化防止のための経済産業省による「グリーン物流パートナーシップ推進事業」制度の対象です。また、倉庫内での荷物の移動はコンピュータ制御で自動化されているため、フォークリフト運転者の負担が大変軽減されました。

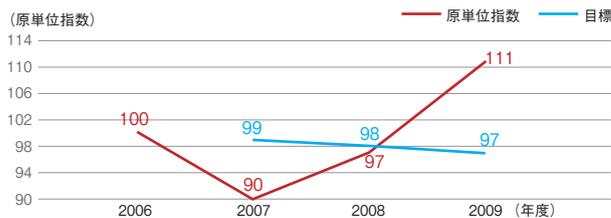


大阪工場立体倉庫

**今後の取り組み** 2010年度も、引き続き、包装容器の大型化、エコドライブ、モーダルシフトなどで省エネを推進し

ます。また、産業廃棄物についても処理の際の輸送距離の短縮に努めます。

### ■輸送に関わるエネルギー原単位



### Voice



鶴見運輸作業(株) 山内 薫 さん



立体倉庫の搬出搬入作業風景

現在、大阪工場などの製品の入庫作業と本社から連絡されてくる出荷データの内容確認と倉庫からの出庫作業を行っています。今までは、倉庫が狭くて製品の移動に手間取ったり、照明が暗くて高い所にある製品を間違えて出してしまうとか、破損させたこともありました。

現在ではコンピュータ制御による自動入出庫システムとなったので、無駄やトラブルがなくなりました。自動的に出荷製品が出るため作業が早くなったうえに、破損や誤出荷が防止できるようになりました。また、高所のラック棚から製品をフォークリフトで降ろす危険な作業もなくなり、安心して作業することができるようになりました。



## 水質汚濁防止

排水処理の管理に努め、法規制値を遵守しています

荒川化学グループは水溶性の製品を多く製造しており、それらの製造の際に製造設備やタンクローリーから排出する洗浄水は環境への負荷が大きいため、その処理は重要です。

2009年度においても、排水処理の管理に努めてきた結果、懸濁物質(SS)、化学的酸素要求量(COD)は規制値を十分クリアする結果となりました。今後も、法規制値の遵守を継続していきます。

### ■COD・SS負荷量の推移

